



神さまの守りの中で  
のびのび育つ子どもたち



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属  
片瀬のぞみ幼稚園  
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだよ  
り

2017年5月号

## 5月主題聖句

「わたしたちは見えるものではなく、  
見えないものに目を注ぎます」

コリントの信徒への手紙二 4章 18節

牧師（設置者）磯部理一郎

片瀬教会付属「片瀬のぞみ幼稚園」の保護者の皆さん、並びに園児の皆さん、入園そして進級されて、あっという間に、5月の連休を迎えてしまいました。そろそろ疲れが出る頃か、と心配しておりますが、いかがお過ごしでしょうか。大型連休を挟み、幼稚園生活もさらに新しいステージへと進んでゆくこととなります。季節の変動に加え、めまぐるしく変化する日々の集団生活に、懸命に適応してゆこうと努力する、ちっちゃなお身体を見る度に、痛々しくもあり、心が強く打たれます。しかしその一方で、苦難や障壁をものともせず、ひたすらに明るく元気に生きようとする幼い命の大きさと力強さに、驚愕を禁じ得ません。園児ひとりひとりが皆、それぞれに、異なる先生や友だちなど、未知なる集団や世界とまっすぐに向き合っ、年長さんは年長さんとして、年中さんも年中さんとしてそして年少さんも年少さんとして、さまざまな出会いと経験を重ねながら、巨大集団でのコミュニケーション構造を見事に構築して、それぞれの役割をひたむきを実現遂行してゆく姿を見るにつけ、まさに大河ドラマを観るかのような、命と魂の壮大な協奏の響きを感じます。そこには目に見える世界の展開以上に、想像を絶するような、目に見えない巨大な命と魂の躍動が漲り溢れています。

片瀬のぞみ幼稚園の保育は、ご周知の通り、キリスト教精神に基づいて聖書のみことばの光のもとで、命と魂を見つめて日々の保育を進めています。今月の保育主題は、「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます」（コリントの信徒への手紙二 4 章 18 節）。「目に見える」と言いますと、わたくしたち人間の「目」は何と「いい加減」に造られているのだろう、とよく思うことがあります。より広くより大きくも見えませんが、より小さくより狭くも見えませんが。たとえば大海や宇宙、たとえば細菌や原子といったものは見えませんが。それでも確かに宇宙は果てなく存在し、それでも微細な原子の力によって世界は成り立っています。動物によって見える世界は異なりますし、おとなとこどもでも見えている世界は異なるようです。わたくしたち人間の目は、自分の周辺の都合のよいものだけが見えるように造られているようです。人の心の世界、いのちの壮大な力は、肉眼で見ることにはできないのが現実です。愛するお母さんがどれほど胸を痛めてくれたか、自分の小さなからだの中で、どれほど巨大ないのちのドラマが展開しているか、それを鮮やかに見せてくれるのは「肉」眼ではなく、「想像」の眼です。自分の何気なく語った言葉が、どれほど友人の心を傷つけてしまったか、それを鮮明に映し出してくれる目も、想像力という目です。愛も信頼も命も、未来も、実は「肉」眼は映し出してはくれないのです。本当に大切なこと、本当に尊いものを映し出してくれる目、それはやはり、「想像する心の目」なのです。

海や宇宙を測り取るには、それ以上の大きな目と量りが必要です。コップのような小さな目で七つの海の水を見て測り取ることはできないように、命や心の大きさを測り取るには、さらに大きな「想像の目」で測り取らなければなりません。人格の尊さもその絶大な価値も、わたくしたちは何で測り取るのでしょうか。「わが子」を測る量りは、「無限大」の量りで測り取らなければ、「わが子」の尊さを真実に測ることはできないはずで、「無限大」という想像とところの眼で、ひとりひとりの命を測るとき、そのとき初めて、わたくしたちは真実の姿を見ることができるとはならないでしょうか。

イエスさまのご復活を疑った弟子のトマスに、イエスさまは「見ないのに、信じる人は幸いである」（ヨハネによる福音書 20 章 29 節）と、お諭しになりました。人が幸いに、かつ命豊かに生きるためには、「肉」眼で都合よくいい加減に見る目か

#### 磯部紀代子のプロフィール

今春、4 月より日本基督教団片瀬教会担任教師として着任いたしました。どうか、皆さまのお仲間にお加えいただき、楽しい幼稚園生活を共に分かち合いたい、と願っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

東京下町（現スカイツリーの所）で生まれ隅田川の水で育ちました。旧三菱銀行人事部に勤務したのち、献身して東京神学大学（キリスト教神学）で学びました。磯部理一郎との結婚と共に、東京、九州、和歌山の諸教会や幼稚園の牧師・教師を経て片瀬教会に参りました。幼稚園、教会学校のお礼拝でご奉仕をさせていただきます。二児（既に 34 歳と 31 歳の数学教師ですが）の母です。子育てはドキドキの連続ですが、尽きない喜びの泉でもありました。

ら、「想像」という心の目で、さらには「愛の目」「信頼の目」「希望（のぞみ）の目」で、無限大のこころ豊かな目で、お互いを見つめ合い、世界が見られるようになることの大切さを、イエスさまはお教えくださったのではないかと思います。ましてや、全知全能で万物を無から創造された、絶大な大きさと力を持った神さまは肉眼で見てその真実を測り取ることはできません。こころの目、想像の目、信仰の目で見teこそ、初めて神さまの存在は見えてくるのです